

1 日米ティルト・ローター機の整備についての現状

米海兵隊オスプレイ(24機)

- 平成29年頃から定期機体整備を開始する予定
- 本年10月、米軍によって入札に係る公示が行われ、企業から提案を募る見通し

陸自ティルト・ローター機(17機)

- 平成30年度末から順次導入
- 平成36年度から定期機体整備を開始する予定

2 日米共通の整備基盤の意義

- 以下の観点から、日本国内において、日米ティルト・ローター機の共通整備基盤を確立することが適切
 - ① 陸自ティルト・ローター機の円滑な導入
 - ・ ティルト・ローター機は、我が国がはじめて導入する機体であり、自衛隊・企業による同機の維持・整備に関する知見を蓄積しておくことは、同機の円滑な導入に不可欠。したがって、米軍ティルト・ローター機の整備を日本企業が行い、これを活用した陸自隊員による研修等を行うことが必要
 - ② 日米安保体制の円滑かつ効果的な運用への寄与
 - ・ 日米のティルト・ローター機の共通して整備できる体制を整えることは、相互運用性(インター・オペラビリティ)の向上等の観点から重要
 - ③ 日米共通の整備基盤による効率化
 - ・ 将来の陸自機の定期機体整備において、米軍機整備に用いる施設、治工具などを共通して活用することは、効率化に資する。

3 具体的な対応策

- 陸自ティルト・ローター機の整備部隊の中核とすることを見込む第1ヘリコプター野整備隊が所属する陸自木更津駐屯地の格納庫を米軍ティルト・ローター機の定期機体整備のために国内企業に使用させ、陸自ティルト・ローター機の定期機体整備も木更津駐屯地で行う。
- 今般の米軍の整備入札の開始時期にあわせて、防衛省において公募手続を実施し、木更津駐屯地の格納庫を用いることを前提として、米軍の整備入札に参加する国内企業を募集



画像©2014Cnes/Spot Image,Digital Earth Technology,DigitalGlobe,地図データ©2014 Google,ZENRIN-